
7. 「農」をベースとした“まち”と“むら”の交流（継続2年目）

蛇沼八の会
(長野県飯田市)

I. 活動の背景及び目的

平成8年度助成事業として、空家を利用した交流施設作りに資金をいただき、効果的に活用でき、地域全体の活性化に大きな力となりました。

農をベースとしたまちとむらの交流の輪も広がり、老人ホームのお年寄りも春のこま打ち、秋のきのこ祭りを楽しみにしてもらえる状況に、又ふれあい農園に参加している町の住民の稲作も4年目となりました。

昨年まで29戸あった住居も現在26戸と、1年の間に10%減少してしまい、1人暮らしの高齢者も増え、高齢化が進んでいます。

空家を利用した宿泊可能な交流施設を活動拠点として交流人口の増加により、地域の活性化を目ざし、定住人口の安定と農村の景観の保全を目的とした農業体験による様々な交流のステージ作りより、足元からのむらづくりで真の生活の豊かさを追求しようと考え実施しています。

II. 活動の内容

まちとむらの交流

1. ふれあい農園→市街地を中心

休耕田を利用して、市内の8家族による稲作をしています。作業は月1回のペースで管理をして農業の体験をして収穫された米は全部持ち帰ってもらっている。

2. あやめ園作り→老人ホームあやめ園より移植

休耕田を利用して、女性を中心としたあやめクラブにより20aのあやめ園を管理。あやめ祭りを実施しています。

3. 農村景観保全活動

さくら200本と、つつじ600本の植樹を地域全体として取り組み、あやめ園20aを管理して花のあるむら作りをしています。

4. 特産品作り

キノコの里づくりー春の連休に、老人ホームと市街地の家族（ふれあい農園）でコマ打ち作業をして交流活動をしています。

5 交流施設づくり

宿泊をしながら、酒を飲み交わしながら、明日の地域づくりの夢を話し合い、新しいまちとむらの交流のきっかけとなるような場所となればと思います。

自分達の手で手間をかけ、充実感を得られるように心がけています。

III. 結果と考察

平成2年12月発足して7年目、地域づくりがとかく物づくりになりがちであり、一時的に人を集めることは難しくありませんが、資金面等継続して行く事が問題になり、人間関係をもくずしてしまうと思います。

老人ホーム、ホームレスと今の私達の社会で必ず通るであろう高齢化社会に前向きに自らに取り組むことが金のかからない、夢のある地域づくりとなる事と思います。

今年度より、ホームレスの問題にも取り組んでいきたいと考え、会としての3本の柱として取り組みます。

蛇沼区

・人口 男46人
女43人
・世帯数 26戸

